



SALVATIONIST

とぎのこえ

2023年標語「更なる深みへ」(コロサイの信徒への手紙2章7節)

二〇二三年七月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



盛夏号

広報版

2023

July-August

No.2855

2023年 救世軍標語

「更なる深みへ」

「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。」

コロサイの信徒への手紙 2章7節

ときのこえ SALVATIONIST

盛夏号 広報版
2023 July - August
NO.2855



第22代救世軍大将選出される！

救世軍最高会議は、2023年5月27日（土）、 لندن・バッキンガム中将（現参謀総長）を第22代救世軍万国総督・大将に選出しました。夫人のブロンウィン・バッキンガム中将は万国女性部会長に就任します。（関連記事5ページ）

なお、次期大将は2023年8月3日付でエドワード・ヒル中将を参謀総長、シェリー・ヒル中将を万国女性部書記に任命しました。（現・アメリカ及びカリブゾーン担当万国書記官、ゾーン担当女性部書記）



@SAArmyJP



SAArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：次期大将に選出された
 لندن・バッキンガム中将

もくじ

- メッセージ
クリスチャンの幸福
大尉 勝篁 隆 …… 3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第27回
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うち燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 …… 4
- 最高会議レポート
最高会議が第22代救世軍大将を選出
……………5
- 集会報告
東京東海道連隊指導者就任式 …… 6
- 女性部ラリー
関東東北連隊、西日本連隊 ……7
- 各地のニュース !!
渋谷小隊、西日本連隊、京都小隊 ……8
杉並小隊、札幌小隊
- 証言
兵士入隊にあたり 石川 凜兵士 ……9
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
関東東北連隊、東京東海道連隊 ……10
北海道連隊、名古屋小隊 ……11
- 〈連載〉各地の小隊から 第7回
札幌小隊 ……11
- 各地のニュース !!
札幌 保育園、佐野保育園・佐野こども
クラブ、世光寮、恵みの家 ……12
- 〈連載・第21回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(8) 共に生きることへの呼びかけ
……………13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第9回「人種差別」(3)
■参謀総長からの通知 …… 14
- 召天記事
- 社会鍋俳句コンテスト受賞作品 ……15
- 各地のニュース !!
熊谷小隊、男子社会奉仕センター、海外
士官の離日 ……16

メッセージ

クリスチャンの幸福

大尉 勝篋 隆



皆さんが幸せを感じる時ってどんな時でしょうか？
 おいしい物を食べる時、旅行やショッピングに行く時、家族と一緒に過ごす時、趣味を楽しんでいる時、それぞれに幸せな時があると思います。私にとっては、休日にカフェに行つてくつろいだり、旅行先でおいしい物を食べたり、音楽を楽しんだり、映画を見たり、好きなことをして過ごすのがとても幸せな時間です。

人は誰もが幸せになりたいと願います。いろいろな事がある世の中で、人々は自分なりの幸せを求めて生きています。それはクリスチャンも同じだと思います。ではクリスチャンの幸福とは一体何でしょうか？聖書が教える幸福とは何でしょうか？ 私たちはどこに幸福を見いだすのでしょうか。

私は初めてこのイエス様の教えを聞いた時、驚きました。それまで私が知っていたのとは全く異なる幸福の概念でありました。なぜなら世の中では、苦しみや悲しみがなく幸福だと考えるからです。しかしイエス様は、苦しみも悲しみも含む幸福を教えられるのです。それは、苦しみ、悲しみが、慰めと希望に変えられる福音の世界の幸福です。

クリストを信じる者の幸福は、すでに天の国の祝福が確立されていることです。これが救われたクリスチャンの特権です。いざ自分が苦しい状況にある時は、その先にある神の祝福を理解することは難しいのですが、

「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。」(詩編34:9)

私たちはこの地上であつて、すでに天の国の前味を味わわせていただいています。信仰が揺さぶられるような、苦しい時や試練の時があるかもしれません。しかし、クリスチャンはそのような時でも幸いなのです。私たちは苦しい時も悲しい時も、神によって慰められ救われるという天の国の約束をすでにいただいているからです。唯一、私たちに必要なことは、その神の約束と祝福を信じることなのです。(財務管理部)

何があろうとイエス様の十字架と復活による祝福は、私たちの人生の上に確約されています。

クリスチャンの地上の歩みは、多くの苦勞や試練があるかもしれませんが、そこには神の国の幸福に至る祝福が伴っているのです。

ダビデは、辛く、危機的な状況から助け出された経験を通して、このように神を賛美しています。

ミッション・チーム来日

6月5日(月)、米国南部軍国より、ミッション・チームが来日しました。7月16日まで、各地で福音伝道の働きに従事します。日本軍国ではこれまで、レボリューション・ハワイ、米国中央軍国からのミッション・チームの受け入れをおこない、良き伝道の時となりました。今回の機会も活かされるよう、チームのメンバーと受け入れる小隊を覚えてお祈りください。

[スケジュール]

- 6月 7日(水) ~ 10日(土) New Hope 麻布
- 6月 11日(日) 江東小隊、上野小隊山谷伝道
- 6月 14日(水) ~ 17日(土) 福山小隊
- 6月 18日(日) 天満小隊
- 6月 21日(水) ~ 25日(日) 仙台小隊
- 6月 29日(木) ~ 7月 6日(木) 杉並小隊
- 7月 8日(土) ~ 9日(日) 渋谷小隊
- 7月 11日(火) ~ 13日(木) 京都小隊



後列左: ジェラルド・マルドナド (リーダー)
 後列右: グレイシー・パリッシュ (リーダー)
 前列左: デボラ・エンズリー
 前列右: ケオラニ・ペレズ

*リーダーは2名

連載 聖潔の流れに立つ 第二十七回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前) 彼はこの小さな教会でローマ書にあるルターの強調する「信仰によってのみ義とされる」という聖言を聞いた。これが彼をあの有名な「第二の回心」へと導いた。この経験は、体験主義に基づく敬虔への道が展開されるきっかけとなった。

司会者がルターの「ローマ書序文」を読んでいた。夜の九時十五分前の頃であった。ウエスレーは神が心に深く語りかけるのを感じた。

「私は私の心が不思議に温まるのを覚えた。私は救われるためにキリストのみに信頼した、と感じた。そして、この私の罪をキリストが取り去ってください、罪と死の律法から私を救ってください、という確信が与えられた。……そこで私は初めて今、私の心の中に感じた事柄を、公にそこにいるすべての人々に証言したのである」と日誌に記している。この日誌は、一七三五年から一七九一年まで認められている。

この「回心」の体験は「行為義認から信仰義認」への転換、すなわち回心の福音的体験であった。それまでのウエスレーは、罪の赦しは道徳的生活において進歩する度合いに応じて与えられるものと理解していた。すなわち、聖化と義認が区別されていなかった。

しかし、この時点からは罪と苦悩から解放されて、「義認」と「喜び」に与る聖霊の働きかけを認識する

ようになった。この発見は、「知的回心」と呼ばれている。

ウエスレーの「回心」は、ウイリアム・ローの「道徳的神秘主義」やモラビアン派の「敬虔主義」、また英国国教会の「儀式主義」、カルヴァンの「ピューリタンズム精神」(キリストの純粋な無償の贖罪により、律法的圧迫から救いを得たが、救いを受けた者が律法の目指すところに敬意をもって、これを大切にする精神)が、美しい形において彼の内面に溶け込んでいた。神は律法を通して私たちを福音へと導き、福音は律法への遵守へと私たちを導くとは、ピューリタンと敬虔派の共通の認識である。

今や溢れんばかりの熱意と確信をもって、新生の力を証しする者へと彼は変えられた。これは彼の生涯にとって、決定的な重要性をもっていた。ウエスレーはこの救いが自己訓練や善行の報いではなく、神の恩寵の賜物として捉えることができたのである。これは個人的な確証であった。

このアルダスゲート街の教会で起こったことは、神秘的なものでなく、感情的なものでなく、また主観的なものでもなかった。燃える思いは、最も均整のとれた「神からの賜物」であった。こうして彼は、動揺する不安定な心の状態から脱したのであった。

当時の英国は、宗教的・道徳的衰退が目立ち、極めて劣悪で酸素を欠いた空気のような状態であった。この回心の体験は、メソジズムの歴史に特筆すべき日となり、福音主義的信仰復興の前兆となった。これは英国の宗教史上に、新しい時期をもたらした。ウエスレーのこの確信は、メソジズムの真の本源となった。弟チャールズは、兄ジョンの顔に満ちた清々しい喜びを見るや「私たちは歓喜と感謝にあふれて賛美歌を合唱し、祈禱を共にした」と記している。

このような出来事の中にウエスレーにおける「聖潔

と幸福」の同一視が見えてくる。ウエスレーの信仰生活の基礎は自我中心から神中心の立場へと代わり、その後の五十年の活動は、この礎石の上に立つものとなった。

ウエスレーの「第一の回心」と「第二の回心」の明瞭な違いは、「罪の赦しをどのように考えていたか」にある。この体験は行為義認から信仰義認への転換であった。以前、彼は自分のことを、「ほとんどキリスト者」であると評していたが、これは自分の信仰が「キリストの義に与る」ところまでは到達していなかったためと認識したのである。行為は神の前に正しくあっても、精神的に靈性が罪の束縛の下にあったから、内心の戦いが絶えなかったのである。

これより後、ウエスレーの説教は人の墮落と罪を力説した。それと共に、神の恩寵とキリストの贖いによる救いを強調した。これはルターと同じではあったが、ルターに比して倫理的分子が多く、この思想はドイツの敬虔派(モラビア派)と近似している。「完全」とは全く罪のないことを言うのではなく、「愛において完全なる」ことをウエスレーは言おうとしているのである。新約聖書の説く完全は、欠点がないというのではなく、責められるところがないことである。それは到達された義ではなく、与えられた義であることがウエスレーにはわかった。

今やその時期に到達した。そこで、アルダスゲートでの経験の後、三週間後にウエスレーはドイツに赴き、東南ドイツのドレスデン近郊のモラビアン派の共同生活村ヘルンフトを訪ねた。そして神学思想、教団組織、伝道方針など多くの示唆を与えられた。

五、ドイツ敬虔主義とは何か

一六九〇年頃から一七三〇年頃の間ドイツのプロテスタント教会を統合していた敬虔主義の性質を「ドイツ敬虔主義」と呼ぶ。

(続く)



最高会議レポート

最高会議が第22代救世軍大將を選出

2023年5月18日～27日 英国ロンドン サンベリーコート

参謀総長リンドン・バッキンガム中將により最高会議が招集され、現役の中將ないし軍国のリーダーである大佐の112人が英国ロンドンに集まりました。日本からは司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出席しました。

5月20日(土) 最高会議員の歓迎及び第21代救世軍大將であるブライアン・ペドル大將、ロザリー・ペドル中將の送別集会在ウエストミンスター・セントラル・ホール(メソジスト教会)で開催されました。賛美と御言葉の恵みにあふれた集会で、ペドル大將夫妻の士官としての歩み、大將在任中の歩みを振り返り、神の導きと真実さに感謝を献げました。

5月21日(日) 最高会議員のための礼拝が会議場であるサンベリーコートでおこなわれ、イギリス国教会のカンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師がルカ18:27から説教しました。

5月22日(月) 会議第一日目。1980年救世軍法(イギリスの議会法)で規定された最高会議の手順に則り、投票により最高会議の役職者が選出され、会議の運営は議長の手に乗せられました。最高会議議長—ケネス・ホッダー中將(米国総司令官)、副議長—エヴァ・クレマン中將(ヨーロッパゾーン担当女性部書記)、チャプレン—ユサク・タンパイ中將(インドネシア軍国司令官)。

5月23日(火) 祈禱会では、20日の集会で集められ、金色の器の中に納められた「祈りのカード」の中から祈りが読み上げられました。



午前中は、最高会議の進行の指針となる「手続規則」が検討され、承認されました。手続規則に従って、質問委員会の委員7人が選出され、質問委員会が大將候補者に回答を求める質問票を作成する作業が開始されました。

5月24日(水) 午後、第22代大將の候補者推薦のために会議員が集まり、以下の4人が候補者への指名を受けました。

リンドン・バッキンガム中將(参謀総長)

マール・ヒートウォール中將(ラテンアメリカ北部軍国司令官)

ケネス・ホッダー中將(米国総司令官)

ダイアナ・マクドナルド大佐(パキスタン軍国司令官)

なお、キース・コンラッド中將(アフリカゾーン担当万国書記官)は指名を辞退しました。ホッダー中將が指名を受けたことにより、ブラッド・ベイリー中將(米国中部軍国司令官)が新たに最高会議議長として任命されました。

5月25日(木) 午前中の短時間の会合の後、大將候補者とその配偶者が演説原稿と質問に対する回答を準備する間、5月26日(金) 午前中まで議事は中断されました。

5月26日(金) 4人の大將候補者とその配偶者に対する質問の回答を聞く時をもちました。回答の順番は抽選で決められました。回答に入る前に、副議長のクレマン中

將は、通訳者、IT技術者、事務局スタッフなどサポートチームに感謝の言葉を述べました。

祈禱会の後、大將候補者の回答は間をおかず続けておこなわれ、会議員たちは終始、賛否を表明することなく沈黙して聞き入りました。これは最高会議の「手

続規則」に規定された方式です。回答が終わると、会議員たちは黙禱をしました。チャプレンは聖書から励ましを与える3つの聖句(詩編46:10、ヨシヤ1:9、ヨシヤ3:5)を朗読し、祈りを献げました。

続いて、演説の発表に移りました。再び順番は抽選で決められ、チャプレンは2つの聖句(ヤコブ3:17、ガラテヤ5:25)を朗読し、候補者たちが発表をしました。最高会議は5分間の黙禱を献げ、チャプレンの祈りでこの日のプログラムが終わりました。

5月27日(土) 選挙がおこなわれ、最高会議は投票により、リンドン・バッキンガム中將(現参謀総長)を第22代の救世軍万国総督・大將に選出しました。

ブライアン・ペドル大將は2023年8月2日に引退し、8月3日にリンドン・バッキンガム中將が大將に就任して、世界133の国と地域の救世軍を指揮する任務を開始します。また、夫人のブロンウィン・バッキンガム中將は万国女性部会長に就任します。



最高会議の役職者 左からベイリー中將、クレマン中將、タンパイ中將



大將候補者 左からバッキンガム中將、ホッダー中將、マクドナルド大佐、ヒートウォール中將

〈プロフィール〉

リンドン及びブロンウィン・バッキンガム中將夫妻は1990年1月にニュージーランド・フィジー・トンガ軍国で救世軍士官に任官され、クイーンズタウンで士官としての最初の奉仕を開始しました。1992年に救世軍士官学校に任命され、1994年7月に最初の海外奉仕としてカナダ・バミュダ軍国のウィンザー小隊士官に任命されました。1998年7月にニュージーランドに帰国してウェリントン・シティ小隊士官に任命され、さらに、本営青少年部長及び士官志願者部長の任命を経て、2007年からニュージーランド南部連隊の連隊リーダーを少佐の階級で務めました。2010年2月に本営に戻り、大佐補の階級で伝道事業部長と副伝道事業部長にそれぞれ任命されました。2013年2月、バッキンガム大佐補夫妻はシンガポール・マレーシア・ミャンマー軍国の書記長官及び軍国女性部書記に任命され、同年6月に同軍国の司令官と軍国女性部会長に任命されました。2018年1月1日付で夫妻は英国・アイルランド軍国の司令官と軍国指導者育成部長に中將の階級をもって任命され、同年8月3日付で参謀総長と万国女性部書記にそれぞれ任命され、現在に至ります。

集会報告

東京東海道連隊指導者就任式

5月7日(日) 午後3時 会場：山室軍平記念ホール

定刻、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の奏でる「聖霊能力をください」に合わせて司令官夫妻、新連隊長中島美和大尉、新連隊女性部書記鈴木真理子大尉が入場しました。集会は書記長官西村保大佐補の司会で進められました。「救いのうたごえ」(『救世軍歌集』168番)を一同で高らかに歌い、小林誠曹長(京橋)が開会祈禱を献げました。書記長官は会衆を歓迎し、新たに東京地区に着任した士官を紹介。また、6月19日に離日し米国西部軍国に戻るセジャー・マカチェン大尉、フィリップ・マカチェン大尉に感謝を表しました。司令官スティーブン・モーリス大佐は挨拶でこの集会の意義を強調し、続いて司令官と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の司式により、連隊長及び連隊女性部書記就任式が執りおこなわれました。

連隊長と連隊女性部書記がそれぞれ新たな任命の責任を忠実に担うこと、神の言葉である聖書を土台とすること、救世軍旗が示す救いと聖潔の教理を伝えること、恵の座の重要性、救世軍に連なるすべての人の霊的成長のために奉仕することの宣誓をし、司令官が新しい連隊指導者のために祈りを献げました。会衆は拍手で歓迎しました。

JSBの演奏「静まって知れ」の後、繁田忍書記(名古屋)からビデオメッセージで歓迎の言葉が贈られました。霊的リーダーとしてコロナ後の歩みを牽引していただきたい、とエレミヤ29:11、ローマ5:3を引いて語りました。

鈴木真理子大尉が証言をしました。「ヘブライ11:17~19の御言葉から、アブラハムのように信仰によって進むようにと示されている。神様は人を死者の中からも生き返らせることができるお方であると信じて歩むとき、わたしたちは大きな祝福に与ることができる。『主の山に備えあり』とあるように、この連隊に神様からの大きな祝福が備えられていると期待している。また、共同体の祈りの重要性を示されている。神の民はいつも祈りによって勝利してきた。困難な現状にも、皆で心を合わせ、祈りの手を挙げて、信仰により、祈りによって、備えられている祝福を皆さんと共にいただいきたい。」

会衆賛美のうちに献金を献げ、諸井めぐみ副会計(横浜)がコリント二4:5~15を聖書朗読しました。続いて連隊ユース有志が「土の器」を合唱。中島美和大尉は「行き詰まらず、失望しない力」と題して説教をしました。「救世軍は、主であるイエス・キリストを宣べ伝え、福音



小林曹長



繁田書記



諸井副会計



就任式の様子



青年たちの賛美の歌声が響いた



JSBの演奏



鈴木真理子大尉



中島美和大尉

を生きていくことを使命としている。神の栄光と無縁の暗闇の中にいたわたしたちの心に、神が働いてくださり、イエスを通して、神のすばらしさを知ることができるようにしてくださった。その感動、感謝をもっているだろうか。もろい土の器であるわたしたちの内に、世の光であるイエス様が来てくださり、その復活の命が働いているから、わたしたちは行き詰まらず、失望することがない。最大の希望として、永遠の命の約束をいただいているのだから何も恐れることはない。『終わりの時には困難な時期が来る』とテモテ二3:1にある。どんな困難にあっても、土の器に神の力を宿し、力の源であるイエス・キリストの復活の福音を伝えていくなら、必ず祝福される。現状を悲観するのではなく、神様に期待し、共に祈り、御言葉を分かち合い、励まし合って、霊の炎を燃え立たせていきたい。これからも力強く前進することができるよう、思いを一つにしていこう。」

御言葉に応答して祈りの時をもちました。最後に軍国女性部会長が閉会祈禱を献げ、司令官が祝禱して閉会しました。強い雨の降る午後でしたが、多くの戦友が集い、一同、恵みに満たされて散会しました。

(会衆116人、オンライン視聴回数14回、恵の座4人)

救世軍創立158周年記念日
7月2日(日)



女性部ラリー

●関東東北連隊

5月18日(木)13時30分より、前橋小隊を会場に、対面とオンラインでおこなわれました。関東地区の5小隊から37人、東北地区の3小隊はオンラインで11人が集いました。

一部の礼拝では、『この時のためにこそ～若きフローレンス・ブースの物語』を紹介し、連隊女性部書記藤井千明大佐補が、コロサイの信徒への手紙2章6～10節より、「更なる深みへ」と題してメッセージをしました。また、「主のみ救い」のバンドの演奏に合わせて、対面及びオンラインで参加している各小隊の女性が共に、タンバリンの操練を、河野多実子 YP 副曹長(高崎)の指導のもとおこないました。最後は張田和子中將が祝福のお祈りを献げました。

二部は、友愛セールバザーをおこない、各少隊の売り上げは、シリア・トルコ地震のため献げられました。久しぶりの対面集会に大きな祝福を受け、散会しました。

●西日本連隊

5月30日(火)、「更なる深みへ～祈りと交わりを通して～」(コロサイ2:7、詩編133:1)というテーマのもと、3年ぶりに、対面・オンラインの併用でおこなわれました。泉尾小隊をメイン会場、八幡小隊、福山小隊をサブ会場として、地区ごとに複数の小隊が集まり、さらにサテライト会場として岡山小隊、個人参加の士官・戦友も含めて、総参加者は45人でした。

まず、各会場で昼食と交わりの時をもち、午後からは、インターネット (Zoom) で双方向のやり取りができるようにしました。全体で「礼拝」、「賛美と証しの時」のプログラムをおこないました。ゲストとして迎えた軍国女性部書記補佐石川芳子少佐から、「キリストに結ばれて」と題するメッセージを聞き、どのような時にもイエス様が私たちと共にいてくださる幸いを聖書から確認しました。また、各会場からの挨拶や証言、ラッパの伴奏に合わせてタンバリンの賛美、石川芳子少佐のリードによる手話賛美がありました。新型コロナのために2020年から2022年まで紙面による交流でしたので、今年皆さんで久しぶりに顔を合わせ、声を交わすことのできた恵みを感謝しました。(泉尾メイン会場20人、八幡サブ会場11人、福山サブ会場7人、岡山サテライト会場5人、個人参加2人)



石川芳子少佐



午後は Zoom で結んで、「礼拝」と「賛美と証しの時」



↑石川芳子少佐指導で手話賛美
←タンバリン操練



ランチは、それぞれの会場で、おいしい食事をして、ゆっくりと過ごしました

最後にズームの画面で、集合写真を撮りました

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

食料品の寄付をいただきました。これは在籍の小学5年生のプロジェクトで貧困と富裕についておこなった研究に伴い、校内で寄付を募った物を救世軍に託してくださった

渋谷小隊

●インターナショナルスクールとの交流

3月23日(木)、カナディアンインターナショナルスクールから衣類や食料品の寄付をいただきました。これは在籍の小学5年生のプロジェクトで貧困と富裕についておこなった研究に伴い、校内で寄付を募った物を救世軍に託してくださったものです。

4月11日(火)には、同校で小学5年生の各課題に対するプロジェクト発表会(グレード5エキシビジョン)に招かれ、彼らの研究発表を聞きました。



↑エキシビジョンでの展示
→プロジェクトチームの子どもたちと



京都小隊

●岩渕まこと&由美子「スプリング セレブレーション コンサート」

4月8日(土)、ゴスペルシンガーソングライターの岩渕まことさん・由美子さんご夫妻のコンサートを開催しました。今年は岩渕まことさんの歌手デビュー45周年の記念すべき年で、ライブでのコンサート開催は久しぶりのことでした。トークタイムでは、これまで人生の試練や苦難の中で「いつも神様が共にいてくださった」と話してくださり、そのつらい体験を通してつくられた「父の涙」や、新曲の「天使のメロディー」を含め、オリジナルの賛美を心を込めて歌っていただきました。また、翌日のイースター(復活祭)を覚えて、イエス・キリストの復活による希望について分かち合ってくださいました。海外からの旅行者も立ち寄られ、大盛況のコンサートとなりました。(聴衆55人)



岩渕夫妻

●屋下がりのコンサート

5月20日(土)、アマチュア音楽家



西日本連隊

●京阪神地区 召天者合同記念会

4月22日(土)、大阪市設瓜破霊園内の救世軍墓地でおこないました。良い天候に恵まれ、ご遺族を中心に昨年より多くの方が集われました。救世軍大阪セントラルホールバンドのアンサンブルの前奏「おどろくばかりの」に続いて、「はるかにあおぎみる」をバンドの伴奏で賛美しました。京都小隊士官 粟飯原順大尉が司会を務め、神戸、泉尾小隊士官 立石真崇少佐の開会祈祷、関根義行曹長(天満)の召天者名簿朗読に続いて、西日本連隊長 本村大輔大尉の司式で宮地勝子兵士(西成)の納骨式を執りおこないました。

それぞれが信仰による天国への希望を新たにすることができ、礼拝の後も交流の時間もたれました。(出席45人)



による2つのコンサートをおこないました。

一部：チェロのコンサート「チェロアンサンブル中之島」(午後1時半~2時)……チェロ八重奏+ピアノの編成で、一曲ずつ説明を交えながら演奏していただきました。「ダニーボーイ」(2023年救世軍テーマコーラス、アイルランド民謡「ロンドンデリーの歌」)、「ハンガリー舞曲第1番」(ブラームス)など5曲が演奏されました。(聴衆47人)

二部：ジャズのコンサート「Hot Chop Suey ホットチョップスイ」(午後3時半~5時)……ホットチョップスイは香港在住の日本人で結成されたディキシランドジャズバンドで、京都小隊士官の粟飯原順大尉は献身前、香港で長年、トランペットを担当しており、今回は10年ぶりの再会公演となりました。この間に亡くなった仲間(ドラム奏者)のための追悼演奏では、黒人霊歌「Just a closer walk with Thee (イエスに寄り添って歩みたい)」ほか「いつくしみ深き」など数曲を演奏し、粟飯原順大尉が天国とイエス・キリストについてショートメッセージをしました。演奏後、31の方が『ときのこえ』と『天国パスポート』*を受け取って帰られました。(聴衆43人)



*パスポート型のトラクト

杉並小隊 ●イースター聖別会、兵士入隊式

4月9日(日)、イースター聖別会は小隊士官山谷昌子少佐の指揮で進められました。聖書朗読とピアノ、オルガン、杉並小隊バンドの演奏、独唱によって、主イエス・キリストの受難と復活の出来事をたどり、山谷昌子少佐は「信じる者は救われる」と題してメッセージをしました。続いて、石川凜さんの兵士入隊式がおこなわれ、証言を聞き、一同、神様に感謝と賛美を献げる時となりました。

また、子どもたちの進級進学のお祝いもあり、喜びがあふれました。ハレルヤ!



子どもたちの新学期の歩みに祝福をお祈りしました

でも救世軍のユースの集まりは楽しくて行ってしまいました。年齢の近い人たちと集まれる居場所だったので。でも聖書の話や賛美の時間になると心を閉ざしたくなり、逃げたくなりました。中学時代から去年まで、神様の存在について揺らぎを感じていました。生まれた時から周りはクリスチャンのいる環境で、潜在的に神様はいると思ってる自分と、神様のせいで私はこんなに苦しい思いをしているのにな、なんでそんな存在に従わなきゃいけないの? と反抗心をもつ自分がいたのです。信じている、信じていない

しかし去年の青年デーで、神様は私たち一人ひとりに霊を与えてくださった、というテーマのメッセージを聴いて、「ああ、自分の中にいる神様の存在を否定し続けたから、こんなに満たされれないだ」となぜか素直に納得できたのです。その時の聖書箇所は、ガラテヤ5・16、17でした。

私にとっては痛みだった様々な経験も、それらを通して神様との出会いと救いが用意されていたのだと今では捉えることができます。これからも行き詰まることはあると思いますが、神様との対話を通して決めて進んでいきたいです。ハレルヤ。

札幌小隊 ●女性の働き

女性の働きを今年に入って少しずつ再開しています。5月から3カ月プログラムを立ててご案内しつつおこなっています。小隊前の掲示板にも案内を出して徐々に広げていこうと計画しています。

5月7日(日)は簡単ヨーグルトケーキを作りました。子どもにも大人気の冷凍可能な一品で、作って冷凍庫に入れておけば、急な来客にも対応できます。

6月4日(日)は「暑い夏に備えて目指せラク家事」で、みそ玉を作りました。ドライ品(わかめ、野菜、とろろ昆布、わけぎ、油あげ)の具でアレンジを楽しめます。聖書の御言葉を分かち合い、暮らしに神の恵みを取り入れながら、幅広い年代の女性たちが楽しんでいきます。



〈証言〉
兵士入隊にあたり
石川 凜
きようはこうして、私が幼い時から祈って見守ってくださっている杉並小隊の皆さんの前で兵士入隊できることを

感謝いたします。私は士官子女として育ちました。私にとって親の転任による環境の変化は苦痛でした。人間関係などで学校に馴染めず中二の時に不登校になりました。中三の時に両親の転任で杉並に来ましたが、学校に行けず自信をなくしているタイムミングでの環境の変化は、私には大きなストレスでした。杉並に来て学校に行けずになりました。そういうことが度重なり、私は士官子女であることが嫌で仕方ありませんでした。当時の私は、普通の家庭に生まれたかった、と親を恨むと同時に、自分から親を引き離れた存在として神様をも恨みました。

で悩むのにも疲れ、神様から逃げたくて必死に自分の中からその存在を追い出そうとしていました。それが、神様との会話をするためのアンテナである霊が仮死状態になっていく過程だったんだ、と今振り返ると思います。その状態にある時は、なんとなく苦しくて、人と一緒にいても孤独で、楽しいことをしているはずなのに不安で、何かしたいことがあっても一歩を踏み出せずにいました。とにかく満たされず、常に飢え渴いている状態です。ひどい時は命を絶ちたいという考えに襲われました。その状態が長く続いていました。

から鱗(うろこ)でした。それから数日後、勇気を出して、いちばん心にわだかまっていたことを言葉に出し、祈りました。泣きながら初めて神様に怒ってみたのです。するとすっきりして胸のつかえがとれる感覚がありました。初めて神様と一対一の赤裸々な対話ができ、和解できた瞬間でした。神様は私その存在を否定し続けても、私に与えてくださった聖霊を通して、見捨てることなく「私はあなたのそばにいますよ」とずっと語り続けてくださいました。そんな寛容さで私を待ち続けてくださったのに存在を否定していたことも謝り、「あなたを受け入れたいです、信じたんです」と祈り始めました。その後その祈りを支えるように、神様は私の周りにお互いに祈り合える人間関係と聖書を学ぶ場を備えてくださいました。それらを通して渴いていた霊が回復するのを覚えて去年の夏に信仰告白のお祈りをする事ができました。

YP (青少年部)・ファミリーニュース

関東東北連隊

●ユース・スプリング・デイ・キャンプ

5月3日(水・祝)午後2時～6時、「あなたは高価で尊い」というテーマで、青年だけでなく、様々な世代が集い、高崎小隊を会場に開催しました。

プログラムは三部構成で、一部では、前橋小隊士官田口哲也少佐の司会のもと、礼拝の時をもちました。高崎小隊の河野佑介さんが開会祈禱を献げ、皆さんで賛美し、御言葉に耳を傾けました。関東東北連隊青少年部書記眞鍋嗣道中尉が、イザヤ書43章4節から「あなたは高価で尊い」をテーマに、『たいせつなきみ』の絵本(マックス・ルケード著)を用いて、メッセージをしました。その後、小グループになり、分かち合い、祈り合う時をもつことができました。

二部では、仙台小隊士官眞鍋恵中尉がゲームタイムを導き、4つのグ

ループに分かれ、グループ対抗で盛り上がり、世代を超えて、楽しい交流の時をもつことができました。

三部では、高崎小隊士官細貝信義少佐・のぶ江少佐の導きで、全員でクッキングをおこない、ハンバーガーをつくり、夕食としておいしくいただきました。初めて参加される方もいて、緊張している姿もありましたが、すぐに打ち解け、神にある家族として、大きな恵みと祝福を得ることができました。(参加者26人)



東京東海道連隊

●青年デー

5月3日(水・祝)～5日(金・祝)、奥多摩バイブルシャレーを会場に、ゲストに司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐を迎えておこないました。

1日目のウェルカムナイトは、チームに分かれてゲームをし、司令官夫妻と、新しく着任した連隊長中島美和大尉、連隊女性部書記鈴木眞理子大尉を歓迎しながら楽しい時をもちました。司令官夫妻は、一人ひとりが神様の最高傑作として造られていること、傑作には作り手の心が込められていること、私たちは一人ひとり、みな違うが、神様が造ってくださった大切な存在として、互いに励まし合い、



感謝し合っていこう、とメッセージしました。

2日目、「聴くドラマ聖書」から御言葉を聞いたのち、小グループでデボーションの時をもって一日のプログラムを始めました。午前中は「ホンキのカクレンボ」で、敷地をいっぱい使ってチーム対抗でかくれんぼをしました。隠れる人は金貨を持ち、まさに「隠された宝を見つけ出す」熱心さを体感する時となりました。午後は近所の体育館で「ミニ運動会」。風船割り、タオル引き、リレーの各種目で熱戦が繰り広げられました。夕食に続いてキャンプファイヤーをし、連隊青少年部書記朝澤義人大尉が、あなたは誰を頼りとしているのか、と、青年デーが終わってそれぞれの場所に帰ってからも、神様に従い続けていこうと語りました。

最終日も朝のデボーションから始まり、派遣礼拝では、一人ひとりがひと言感想、証言をし、3日間の恵みを味わいました。デボーションの時間に本音を語り合い、みんなでお祈りできたことが良かったという証言がありました。続いて連隊長が、目に見える自分や世界の状況は困難でも、聖書が教える神の国の事実を、信仰をもって見つめ、毎日の生活の中で信仰を実際に生きていこう、とメッセージしました。祈りの時をもち、個人で、また数名のグループで祈りました。



各集会では賛美チームのリードで賛美の歌をたくさん歌い、神様に心に向け、礼拝への良き心備えがされました。3日間、暑いほどの晴天に恵まれ、美しい自然の中で信仰の友との交流を楽しみ、神様に心に向け、信仰を深める時となりました。(参加者34人)

北海道連隊

●青年デー 2023「スポーツデイ」

今年、青年デーが帰って来ました。5月20日(土)、十勝の上札内交流館を会場に、久しぶりの対面で20人が参加して、北海道連隊としては十数年ぶりの青年デーがおこなわれました。

今回の青年デーは、北海道で開催される夏のユース・キャンプを視野に入れながら、体を動かして交流するプログラムを中心におこないました。開会式は、帯広小隊士官樋口光世中尉が司会し、歓迎、ロールコール、選手宣誓、お祈り、準備運動としてアクションソング「キリスト命」



を踊りながら歌いました。続いて子どもチームと大人チームに分かれ、オセロゲーム、玉入れ等5つのゲーム競技をおこない、圧倒的に子どもチームが勝利しました。

閉会式では、結果発表があり、「きみは愛されるために生まれた」を皆で賛美し、青少年部長朝澤義人大尉がショートメッセージをしました。昼食後、午後はドッジボール、フットサルなどで歓声を上げて交流しました。午後3時過ぎに、会場を出て感謝の祈りを献げ、帰路に着きました。神様の恵みの一日を感謝します。ハレルヤ! (連隊報)

名古屋小隊 ●献児式

5月28日(日)、ペンテコステサンデーは伝道事業部長石川和男少佐、副伝道事業部長石川節子少佐の出陣でした。聖別会の席上、石川和男少佐の司式により伊藤和玖くんの献児式をおこないました。また、午後は子どもたちと徳川園に散策に行き、楽しい時をもちました。



連載 各地の小隊から 第7回 札幌小隊



小隊士官 石坂臣司少佐
石坂奈緒美少佐

北海道札幌市北区、北海道大学の広大なキャンパスのすぐ近くの住宅街の中にある、十字架を掲げた白い建物が救世軍札幌小隊です。この場所に移転して10年が過ぎました。

札幌小隊の働きの始まりは、1919(大正8)年6月11日に中井中佐夫妻と江藤大尉が札幌に到着し、開戦準備が進められました。同年7月1日正午、軍友招待会が会館にて催され、これには市内の諸教会の牧師や新聞社代表者などが集いました。開戦式は午後8時から司令官デグルート少将によって札幌時計台でおこなわれました。

1942(昭和17)年には、戦時下で保育を必要とする小隊近隣の子どもたちのために、張田豊次郎・マスノ少佐夫妻(編集部注:当時の呼称は「教師」、後の上級少佐夫妻)が会館で託児を始めました。この働きが後に豊水保育所となりました。これが札幌での救世軍の保育事業の始まりとなり、現在はしせいかん保育園、菊水上町保育園、桑園保育所の三カ所で保育事業をしています。

2011年2月5日(土)に現会館の献堂式がおこなわ

れました。真冬の札幌での献堂式でしたが、当日には雪もなく、皆さんでお祝いの時をもちました。その一カ月後、あの東日本大震災がありました。もしも先に震災が起こっていたら、新会館献堂のお祝いムードはなかったでしょう。ここにも神様が札幌小隊を導いてくださっていることを思います。

現在の札幌小隊の聖別会には10~15人が毎週集っています。コロナ禍で集会の開けない時期を過ぎ、一緒に集会に参加できることを喜んで集っています。昼食会も再開していますが、皆さんが持ち寄った料理を分け合って楽しいひと時を過ごしています。70歳以上の人が多いですが、この4月から20代の女性2人が聖別会に出席しています。一人はアメリカから来ているケイリーさんです。彼女は2018年に来日したアメリカ中央軍国のミッションチームのメンバーでした。今回は海外宣教団体のメンバーとして、1年間札幌で仕事をしながら伝道活動をしています。札幌小隊に新しい若い風が入ったことを一同で喜んでいます。



これからは小隊近隣の方々などに広く扉を開き、地域での働きを、と祈りつつ準備をしています。



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

札幌 保育園

●しせいかん保育園
新施設長就任

3月26日(日)、札幌小隊聖別会の席上、3月末日で退任されるしせい

かん保育園の安達津恵子施設長へ、社会福祉部長石川一由紀少佐より感謝状が授与されました。また、4月23日(日)の札幌小隊聖別会の席上で、しせいかん保育園の吉村政美新施設長就任式をおこない、施設長の辞令書が授与されました。(会衆28人、うち保育園関係者17人)

●菊水上町保育園 認定こども園として新スタート

菊水上町保育園は、4月1日(土)より、「保育園型認定こども園菊水上町保育園」として新たなスタートを切りました。保護者の就労の有無にかかわらず通園の申し込みが可能な1号認定の児童の利用も始まっています。



安達津恵子施設長(後列左から4人目)の退任感謝の時



吉村政美新施設長への辞令授与

恵みの家

●開設10周年記念集会

5月1日(月)17時から開設10周年記念集会をおこないました。当日は、開設に関わってくださった設計士、施工会社、法人関係者、職員が集まりました。

吉田真中将がマタイによる福音書25章34節～40節「この小さい者の一人に」と題して職員へのメッセージをしました。今までの10年に感謝をし、今後10年、20年、それ以上の働きが継続できるよう思いを新たにしました。

また、10年勤続の職員、5年勤続の職員へ感謝状が、司令官スティーブン・モーリス大佐より授与されました。(56人)



↑テープカットをした、左から株式会社ポラテックの篠田和弘様、ウェンディ・モーリス大佐、世光寮グループホーム主任の高山さん

←記念集会に集った皆さん

佐野保育園・佐野こどもクラブ

●全職員一日研修会

4月29日(土・祝)、佐野保育園及び佐野こどもクラブ全職員を対象におこなわれました。

一部の礼拝では、社会福祉部長石川一由紀少佐より、久富直樹前施設長へ感謝状、大里忠弘新施設長へ辞令書が手渡されました。引き続き、吉田真中将により、救世軍の理念についての講演があり、昼食後には、石川一由紀少佐から、「児童及び成年弱者保護指針について」の講習を受けました。(46人)



子どもたち手作りのレイを受け取った久富前施設長(中央)と大里新施設長(右)

世光寮

●第四グループホーム「アカシヤ」落成式

4月28日(金)午後1時より、司令官スティーブン・モーリス大佐の司式で、杉並小隊・総合センター別館(アネックス)にておこなわれました。司令官は詩編127編1～5節より、子どもたちの幸せと安全のためにこの新しい建物が用いられるようにと語りました。書記長官西村保大佐補が献納の祈りをし、社会福祉部長石川一由紀少佐が工事経過を説明。施工業者の株式会社ポラテック支店長の篠田和弘様に感謝状が贈呈されました。

完成した「アカシヤ」の住宅前に場所を移し、アカシヤの木の植樹式とテープカットがおこなわれました。出席者は順次建物内を見学し、落成式を終えました。



↑テープカットをした、左から株式会社ポラテックの篠田和弘様、ウェンディ・モーリス大佐、世光寮グループホーム主任の高山さん

〈連載・第21回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(8) 共に生きることへの呼びかけ

(承前) わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。特別な交わりを互いに楽しんでください。各自がキリストの体の部分として、共に支え合い、導き合い、育て合い、認め合い、またチャレンジし合ってください。そして、各小隊の一員として伝道の業に絶えず参加し、活動してください。

世界中で救世軍人は独特な交わりを保っています。聖霊における一致によって、ビジョン、伝道、そして喜びにあふれた奉仕をわたしたちは共有しています。共に生きる中で、わたしたちはお互いの霊的な状態にも責任を負っています。わたしたちの霊的生活の活力は、お互いに責任をもつことで高められ、わたしたちが責任をもって実行しようとする時に、霊的なビジョンは目標となり、バランスのとれた決定を下すことができるようになり、賢く交わりや手段を用いながら自分たちの考えをはっきりと打ち出すことができるようになるでしょう。そのような霊的な導きは、グループあるいは個々において効果的に現れるでしょう。互いに対する責任には、失敗や過ちの告白の機会も伴います。そして、キリストにある救しと希望を確信させてくれるでしょう。

救世軍の「特殊な交わり」を語ることは、大げさでも誇張でも間違いでもありません。他のクリスチャンの交わりも豊かで神様の栄光に満ち、霊的に有効なものです。さらに多くの部分で、救世軍人の交わりは特徴的です。

まずは、制服が救世軍人の目印になります。救世軍人全員が着用しているわけではありませんが、制服の存在は結びつきを強めます。どこの国から来ても、例えばウガンダからでもベルギーからでも、インドやカナダからであっても、またはどの地位にある人でも、例えば議員でも秘書でも、医師でもバスの運転手でも、また、裕福でも貧しくても、健康な人でも病気の人でも、男性でも女性でも、子どもでもお年寄りでも、制服によって一体感を得ることができるのです。救世軍人同士、すぐにわかります。制服を見てもお互いにわからないということはほとんどないでしょう。制服は「わたしたちは一つである」ことを示しています。神様に対する献身と同様に、お互いへの責任を負っていることを示しています。たとえば制服を着ていない時であっても、救世軍の兵士たちは結びついており、お互いにその一員です。

バンドや唱歌隊も同様です。彼らは地元でも世界でもすぐにわかる印章をつけています。楽隊員や唱歌隊員は交わり、礼拝、そして伝道に役割をもっています。しかし、同時にその「結びつき」は、排他主義やエリート主義の危険を含んでいるのです。小隊の交わりの中に、「内輪」のグループができていたら、大抵の人は疎外感

を味わうでしょう。

そして、組織があります。軍国本営、連隊本部、小隊、社会事業部、これらはすべて救世軍の伝達手段として有意義なものです。救世軍の定期刊行物は、救世軍人同士、あるいは軍国同士をつないでいます。ニュースは広がります。お互いに関心を寄せ合うようになります。ロンドンで午後にあった出来事のニュースが、同日の朝、合衆国に届くこともあり得ます。純粹にお互いの生活に関心を寄せるでしょう。これは大変助けになることです。キリストにあって一つであること、交わりをもっていることの安心感を与えます。その本領が発揮されれば最高に素晴らしいことです。

そこには「欠点」もあります。純粹な関心とゴシップや興味本位の境界線は細いものです。他人のことを知りたいと思う気持ちが高じて、些細なことでもこうあるべきだと不健康なまでに固執するようになる、そういったことは神様が与えられた救世軍の存在意義から遠ざかるものです。

ほかにはどのような特質があるのでしょうか。連合集会は、様々な小隊等から集まって、聖潔の教えを受けたり、喜んで交わりをもつ機会であり、他の教会ではほとんど類を見ません。ジュニア・ソルジャーの制度も珍しいものです。子どもたちが望むならば、世の救いのためという大きな奉仕の中で役割を与えられます。子どもたちに貴重な機会を与えることを軽視してはいけません。

大将の職務は、特に世界中の救世軍人が一つであることを感じさせてくれます。大将の訪問は世界にとって特別です。20世紀初頭にエバンゼリン・ブース大将は言いました。「わたしたち一人ひとは、この広い地球を輪でつなぐために欠かせない存在です。ここにわたしたちの力があります。これがなければわたしたちは弱いもの……この素晴らしい団結を失ってはなりません。」

しかしながら、本当の団結、すべての基となるもの、それは聖霊による一致です。救世軍人が一つとなる理由は、神様において以外には、そして御国のため以外にはありません。わたしたちがもつ交わりの特徴を考えれば、それは最大の効果をもたらすために用いられるべきであり、楽しむべきです。交わりというのは、メンバーが「お互いに支え合い、導き合い、育て合い、認め合い、そしてチャレンジし合う」時に生まれるものです。共にキリストの体の一部であることをお互いが知る時、救世軍人はお互いの内にキリストがおられ、応答されていることがわかるでしょう。

(続く)



昨年11月に来日したペドル大将夫妻

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第9回「人種差別」(3)

救世軍の立場の土台となるもの

(承前) すべての人が自分たちの言葉で神の偉大な業が語られるのを聞いたのです(使徒2章)。

同じように、ペトロのコルネリウスとの出会い(使徒10章)、パウロとエルサレムの使徒会議との出会い(使徒15章)は、初代教会が神の良いニュースは本当にすべての人のためであることを受け入れるために苦闘していたことを示しています。

それにもかかわらず、聖書は明確に次のように語ります。「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」(ガラテヤ3:28、参照コロサイ3:11、エフェソ2:14)。「キリスト・イエスにおいて一つ」という言葉は、性別、階級、民族性ではなく、キリストにある新しい主体性を確立したのです。

聖書は天上の新しいエルサレムについて書いていますが、それは意味深い民族の多様性を示しています。ヨハネはこう書いています。「わたしが見ていると……あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が……玉座の前と子羊の前に立って……」(黙示7:9)。

実際の対応

神の愛の普遍性は聖書に明らかにされており、それは人々の毎日の生活の中に実現されていかなければなりません(ヨハネ4:20)。人種差別は迎え撃つ必要のある悪です。それは組織的、個人的、社会的レベルで、正しく認め、修正し、調停することが必要です。

組織的レベルでの対応

救世軍は平等を大切にし、差別を否認し、人種の多様性を認めます。過去に犯した過ちが生んだ負の遺産に対しては、悲しむこと、悔い改めることが必要です。救世軍人たちが時には、人種差別を永続させようとする、経済的、政治的、精神的なプレッシャーに負けそうになることがある、そのことは認めます。

- *救世軍は人種差別が存在する所で、それに挑戦し、それに打ち勝つ働きをし、その働きを奨励します。
- *救世軍は、その組織の中に人種差別が浸透してこないように用心し、警戒しなければなりません。
- *救世軍は、恐れることなく人種差別について報告し、討議する強力な組織の重要性を認め、そのような組織を提供するよう努めます。
- *救世軍は万国的なリーダーシップと軍国内のリーダー

シップに関して、民族の多様性を確保するため、引き続き努力します。

- *救世軍はその働きの中で、民族の多様性と包括性の価値を奨励します。それは救世軍で働く人々の教育や啓発のための資源を優先することなども含みます。
- *救世軍は、資産運用の構成が救世軍の価値観や信念と一致することを確かめるために、それを定期的に調査します。

個人的レベルでの対応

- *救世軍人は、イエスの模範に倣い、すべての人が神にかたどって造られたゆえにどの人をも尊敬する気持ちから、個人的に人種差別に反対し行動することが期待されます。
- *救世軍人は、人種に関する固定観念や、非難や、ジョークなどをはっきりと退けることによって、他の人々の態度に影響を与えるよう期待されています。
- *救世軍人は、文化と民族性の多様性を尊重するよう家族を育てます。
- *救世軍人は、人種差別の被害者たちに正義がおこなわれるようにと働く人々と共に働くよう奨励されます。

社会的レベルでの対応

救世軍は次の目的のために、政府、企業、市民社会、他の信仰共同体に働きかけます。

- *人種的、経済的ゴールの追求。次のようなものが含まれます。公正な労働条件、適正な収入、安心で安全な住居、生活を高める教育の機会、民族性に関わりなく受けられる健康管理。
- *生活の公私、いずれの面でも、人種的正義と民族の多様性を助長する責任を感じていること。
- *人種に関する固定観念を広めるようなものを避け、拒否する。
- *社会における人種差別の負の影響を認め、この不正を世界から取り除くよう、すべての人々、特に、社会のリーダーたちを励ますこと。

(2017年10月大将によって承認) (続く)

参謀総長からの通知

2023年3月1日付で、世界の救世軍ではすべての「Command(コマンド=「地区」)」が「Territory(テリトリー=「軍国」)」の名称に統一されることになりました。これまで活動の規模や組織の大きさによって区分されていた軍国と地区の違いについて、地区の中には、いくつかの軍国よりも規模の大きい働きに成長しているものがあつたため、大将の諮問会において見直しの討議がなされました。その中で、(1)規模の小さい軍国を「地区」と見直しをする。(2)「地区」の名称を廃止し、すべてを軍国として取り扱う。という二つの選択肢が挙げられ、2021年7月の大将の諮問会で(2)の方策を取り入れることに決定されました。



ショー・クリフトン大将 天に召さる

第18代救世軍万国総督のショー・クリフトン大将は5月29日に天に召されました。

1945年、北アイルランドのベルファストで士官の両親のもとに生まれ、両親の転任に伴い、幼少期は英国各地で過ごしました。ロンドン大学キングスカレッジで法学士の学位を取得。妻ヘレンと共に『血と火』の学年候補生として万国士官学校に入校し、1973年7月5日に救世軍士官に任官されました。小隊士官の任命を経て万国本営に任ぜられ、学びを重ね、神学の学士号を取得。1974年7月、万国本営文書部で6カ月間の奉仕後、ローデシア（現・ジンバブエ）のマゾウエ中等学校で1977年5月まで奉仕、その後小隊士官の任命を受けました。1979年1月、英国に戻り、エンフィールド・シタデル小隊の小隊士官として1982年5月まで奉仕の後、万国本営で法務・議会担当部長に任命され、7年間在任。この間、ロンドン大学で宗教史の博士号を取得。博士論文は『栄光の王冠、茨の王冠 戦時下における救世軍』として2015年に出版されました。

1989年～1992年までプロムリー・テンプル小隊の小隊士官を務めた後、ダラム・ティーズ連隊の連隊長に任命されました。その後、米国東部軍国マサチューセッツ連隊長として2年間、パキス

タン軍国司令官を大佐補の階級で約5年間務め、2000年3月30日に中將となりました。2002年3月～2004年6月、ニュージーランド・フィジー・トンガ・サモア軍国司令官、その後、英国・アイルランド軍国司令官となり、2006年4月2日に第18代救世軍大将に選出されました。2011年4月1日現役を引退。

クリフトン大将は救世軍の重要な成長期を導き、在任中、新たに13カ国で伝道が開始されました。社会正義に対する大将の情熱は、万国社会正義委員会の設立につながりました。大将は、連隊長、士官学校長、軍国の幹部士官に女性が男性と同等に推挙されることを強力に推進しました。最高会議の議員数は、女性士官を正式な代表として確保するために拡大されました。

引退直後の2011年に、44年間結婚生活と奉仕を共にした夫人のヘレン・クリフトン中將が召天。2013年、ビルギッテ・ブレッケ中將と再婚。クリフトン大将は、強いリーダーシップに加え、明晰で鋭い頭脳と、繊細な牧会的配慮を備えていました。また、優れた執筆者であり、多くの本を書きました。現役奉仕中、万国教理委員会と万国霊的生活委員会の委員を務めました。また、長年にわたり万国士官学校の客員講師を務め、英国・アイルランド軍国のウィリアム・ブース士官学校でも講義をおこないました。

告別式は6月23日（金）、ベッケナム火葬場にて。記念会は同日夜、ウィリアム・ブース士官学校にておこなわれました。どちらもライブストーリーミングされました。

第7回 救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作品

今回は全国から四〇八作品の応募をいただきました。ここに受賞作品を紹介し、講評を掲載いたします。おめでとうございます。

選者・唐澤 南海子氏（現代俳句協会会員、「岳」無鑑査同人、第27回俳壇賞 受賞、日本基督教団・信濃町教会員）

最優秀賞

懐妊を告げられし午後社会鍋

兵庫県 足立 有希

評 不安な気持ちで医師と向き合う。ご懐妊です。待ちに待ったその言葉。心にずっしり重く迫ってくる。新しい命が宿りました。午後という臨場感のある表現も、作者の心をよく語っています。幸せな午後です。

優秀賞

社会鍋戦禍の空もこんな青

徳島県 澤田 典子

評 ロシアとウクライナの戦争はいつ終わるのでしょうか。窓を開ければ、広がる真っ青な空、朝だ！澄んだ風、高く昇った太陽、なんと心地よいのだらう。鳥たちは鼓動し、叫び始めている。こんな一日を早くウクライナに届けたい。

高三は半透明よ社会鍋

埼玉県 吉瀬 千咲

評 作者は高校三年生、青春真っ盛り。生まれた時は透明、しかし次第に自己に目覚め、自我が生まれる。死とは愛とは、さまざま問いが浮かぶ。そんな自分を半透明と掴んだ。その発想が瑞々しい。

社会福祉部長賞

少年の祈りは平和社会鍋

東京都 木浦 禮子

評 今日も世界各地で人々は祈ります。祈りは未

来へとつながります。さあ！明日に向かって一歩踏み出しましょう。今日という日の、小さな祈りが消えないように、平和な世界が来ることを確信して祈りましょう。

ほのぼの賞

社会なべいのちをつなぐバトンだよ

栃木県 佐々木 花

評 作者は八歳の花さん。社会鍋をリレー走者のバトンにたとえました。この社会鍋が次の世代へ手渡していくバトンなのです。なんと美しい発想のひらめきでしょう。私たち大人は、花さんからたくさん命のエネルギーをいただきました。

社会鍋見上げる空の星きれい

東京都 野村 信廣

評 心が何かを求めている時、悲しみの中にいる時、空を見上げましょう。計り知れない大きな宇宙に抱かれているよう。自分の鼓動まで聞こえてきた。土も水も全くない宇宙から、大きな勇気を得たようだ。

社会鍋地球の裏に届く愛

埼玉県 森田 章

評 世界はあまりにも悲惨なことが多い。しかし多少泥をかぶっても、同じ地上に立ち、共に手を携え合っている。このつましい生き方が、それが尊いのです。愛は地球の裏まで届きます。

佳作

社会鍋母の教えを手のなかに

眞鍋 勝利

電飾や来ぬ人待つ社会鍋

中村 薫

古書売りに五冊の灯り社会鍋

渡辺 廣之

本屋街人の間に社会鍋

堀川 一彦

社会鍋奏楽の音が今年また

小林加奈江

社会鍋中に明るい明日があり

野村ひとみ

一歩二歩杖を片手に社会鍋

吉岡 敏郎

国境を越えて広がる社会鍋

高橋 恵子

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区) https://www.salvationarmy.or.jp

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

熊谷小隊

●ペンテコステサンデー 書記長官出陣

5月28日(日)ペンテコステの聖別会を、熊谷小隊では5月14日(日)の開戦125周年を覚え、書記長官西村保大佐補、軍国女性部書記西村和江大佐補を迎えて守りました。前奏、後奏を、



書記長官夫妻も加わったアンサンブルバンドがおこない、集会を盛り上げました。小隊士官補佐田口哲也少佐の司会で進められ、西村和江大佐補の勧話の後、書記長官は使徒言行録16章6～10節より「聖霊によって送り出され」と題し、熊谷小隊の歴史に触れつつメッセージをし、聖霊の働きを感謝する時となりました。



その後の愛餐会は、久富直樹青少年部曹長の司会で進められました。新調したばかりのテーブルを囲んで、参加された皆さんが久しぶりに語らいながら昼食を楽しむことができました。

男子社会奉仕センター

●東京アメリカンクラブからの寄贈

5月23日(火)、東京アメリカンクラブからバザーへの寄贈品の集荷に行きました。東京アメリカンクラブは救世軍の働きの良き理解者として様々な面でご協力をくださっています。



海外士官の離日

2020年11月に来日し、江東小隊士官として奉仕したセジャー・マカチェン大尉、フィリップ・マカチェン大尉は、この度、米国西部軍国のアラスカ連隊シトカ小隊士官の任命を受けました。これまでの日本における尊い働きに感謝いたします。ご一家は6月19日(月)に離日しました。



新しい任命の上に神様の祝福をお祈りいたします。マカチェン大尉夫妻と娘のケイトリンさん(右)、アリスンさん

7月16日(日)～
8月31日(木)
こども伝道週間

7月、8月 夏期聖書学校、
キャンプなど(各連隊・小隊)

ユース・キャンプ2023
8月1日(火)～3日(木)
会場：ネイパル足寄(北海道)

主催：本営青少年部・北海道連隊

8月18日(金)
19日(土)

ミュージックキャンプ2023

賛美をつなごう
会場：杉並小隊・総合センター
主催：本営音楽部

(取扱支部)

発行日及び定価
▼発行日 毎月一日発行
▼定価 福喜版・一部 四〇〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円
振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
印刷人 代表者ステイブ・モーリス
編集人 山谷 真
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二丁目十七
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 株式会社ヒーランドエス